

運用実績

基準価額

8,798円

前月末比

+14円

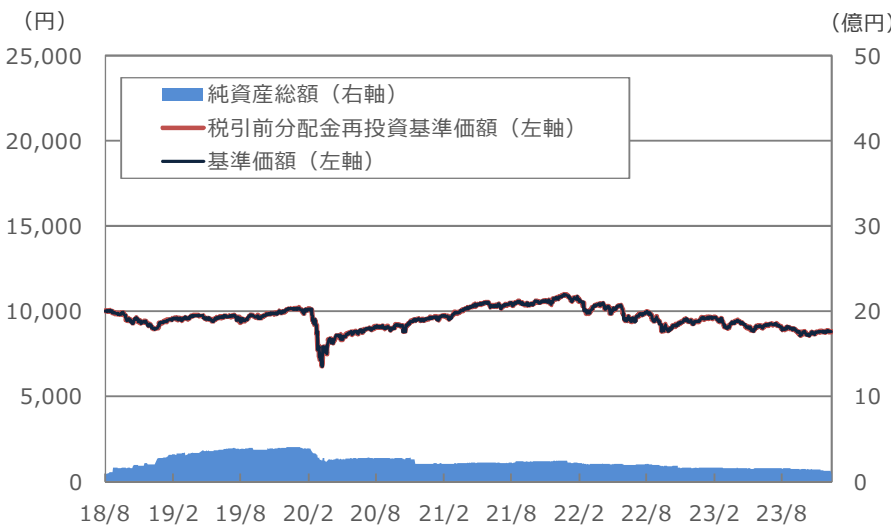
純資産総額

0.78億円

※基準価額は信託報酬控除後の値です。

ファンド設定日：2018年8月17日

基準価額等の推移

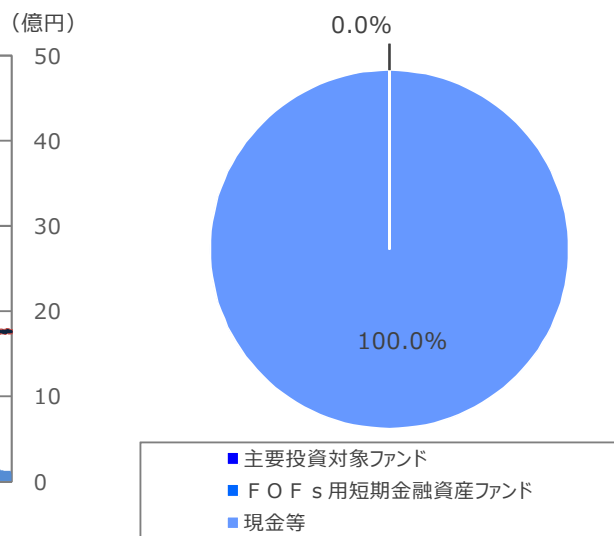


※基準価額及び税引前分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。

※税引前分配金再投資基準価額は、本ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。

※当ファンドの設定日前日を10,000として指数化しています。

資産構成（単位：百万円）



※組入比率は純資産総額に対する比率です。

※主要投資対象ファンドは、「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－グローバル高配当株株式プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）（シングル・プレミアム・クラスA）」を指します。

※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

期間収益率

| 設定来 | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 3年 | 5年 |
|---------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|
| -12.02% | 0.16% | 0.41% | -3.62% | -6.50% | -7.75% | -1.78% |

※期間収益率は税引前分配金を再投資したものと算出した税引前分配金再投資基準価額により計算しています。

収益分配金（税引前）推移

| 決算期 | 第6期 | 第7期 | 第8期 | 第9期 | 第10期 | 設定来累計 |
|-----|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|
| 決算日 | 2021/8/16 | 2022/2/16 | 2022/8/16 | 2023/2/16 | 2023/8/16 | |
| 分配金 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 | 0円 |

※収益分配金は1万口当たりの金額です。

※分配金は過去の実績であり、将来の分配金の水準を示唆・保証するものではありません。

運用実績

基準価額

6,296円

前月末比

▲23円

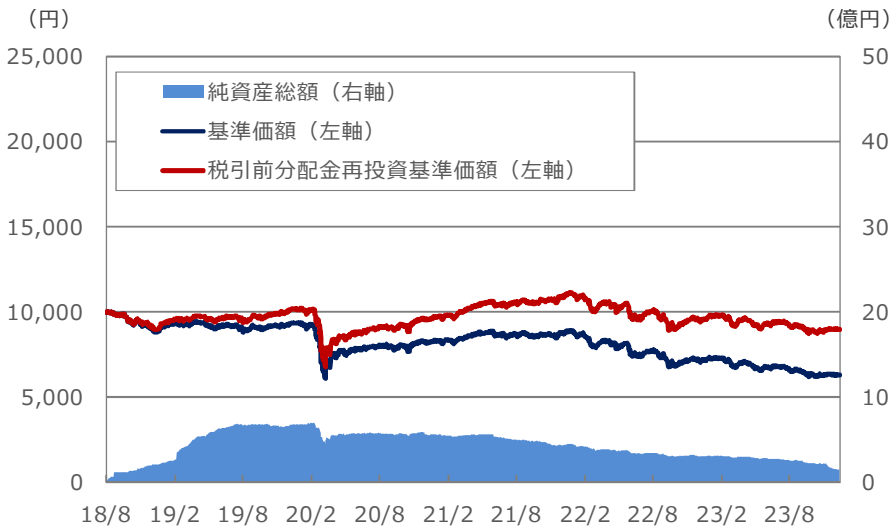
純資産総額

1.09億円

※基準価額は信託報酬控除後の値です。

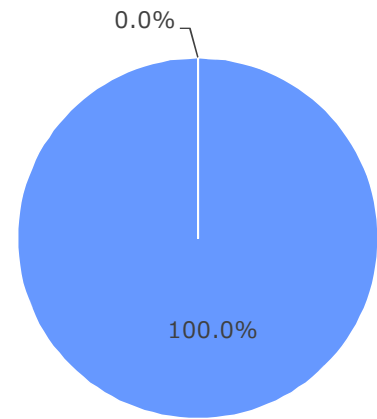
ファンド設定日：2018年8月17日

基準価額等の推移



※基準価額及び税引前分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。
 ※税引前分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資したものととして算出しています。
 ※当ファンドの設定日前日を10,000として指数化しています。

資産構成（単位：百万円）



■ 主要投資対象ファンド
 ■ F O F s 用短期金融資産ファンド
 ■ 現金等

※組入比率は純資産総額に対する比率です。
 ※主要投資対象ファンドは、「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－グローバル高配当株式プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）（シングル・プレミアム・クラスB）」を指します。
 ※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

期間収益率

| 設定来 | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 3年 | 5年 |
|---------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|
| -10.25% | 0.03% | 0.33% | -3.69% | -6.34% | -6.69% | 0.18% |

※期間収益率は税引前分配金を再投資したものととして算出した税引前分配金再投資基準価額により計算しています。

収益分配金（税引前）推移

| 決算期 | 第60期 | 第61期 | 第62期 | 第63期 | 第64期 | 直近1年 累計 | 設定来 累計 |
|-----|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 決算日 | 2023/8/16 | 2023/9/19 | 2023/10/16 | 2023/11/16 | 2023/12/18 | | |
| 分配金 | 25円 | 50円 | 25円 | 45円 | 25円 | 450円 | 2,885円 |

※収益分配金は1万口当たりの金額です。

※分配金は過去の実績であり、将来の分配金の水準を示唆・保証するものではありません。

運用実績

基準価額

4,313円

前月末比

▲34円

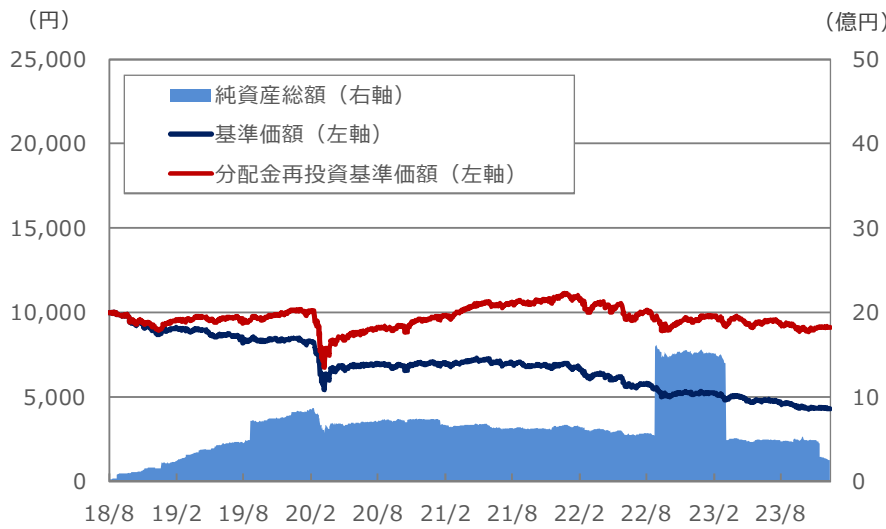
純資産総額

2.30億円

※基準価額は信託報酬控除後の値です。

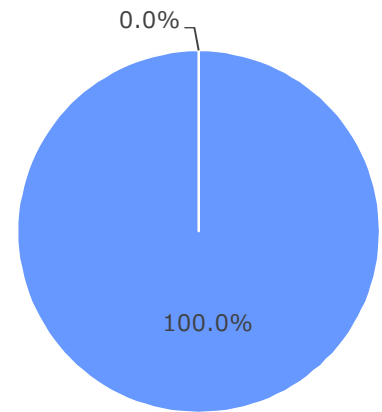
ファンド設定日：2018年8月17日

基準価額等の推移



※基準価額及び税引前分配金再投資基準価額は、信託報酬控除後の値です。
 ※税引前分配金再投資基準価額は、税引前分配金を再投資したものととして算出しています。
 ※当ファンドの設定日前日を10,000として指数化しています。

資産構成 (単位：百万円)



■ 主要投資対象ファンド
 ■ FOFs用短期金融資産ファンド
 ■ 現金等

※組入比率は純資産総額に対する比率です。
 ※主要投資対象ファンドは、「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲ－グローバル高配当株式プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）（シングル・プレミアム・クラスC）」を指します
 ※現金等には未収・未払項目などが含まれるため、マイナスとなる場合があります。

期間収益率

| 設定来 | 1カ月 | 3カ月 | 6カ月 | 1年 | 3年 | 5年 |
|--------|-------|-------|--------|--------|--------|-------|
| -8.88% | 0.02% | 0.44% | -3.37% | -4.79% | -5.25% | 1.50% |

※期間収益率は税引前分配金を再投資したものととして算出した税引前分配金再投資基準価額により計算しています。

収益分配金（税引前）推移

| 決算期 | 第60期 | 第61期 | 第62期 | 第63期 | 第64期 | 直近1年 累計 | 設定来 累計 |
|-----|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|-----------|
| 決算日 | 2023/8/16 | 2023/9/19 | 2023/10/16 | 2023/11/16 | 2023/12/18 | | |
| 分配金 | 35円 | 75円 | 35円 | 65円 | 35円 | 670円 | 5,090円 |

※収益分配金は1万口当たりの金額です。
 ※分配金は過去の実績であり、将来の分配金の水準を示唆・保証するものではありません。

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

2023年12月29日基準

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

主要組入投資信託証券の運用概況

主要投資対象ファンド 評価基準日：2023年12月21日

※本ファンドの主要投資対象であるクレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅲーグローバル高配当株式プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）の運用概況及びコメント等につきましては、クレディ・スイス・グループからの資料を基にSBIアセットマネジメントにて作成しています。

投資対象資産のオプション概況

| | |
|-----------------|---------|
| オプション・プレミアム（平均） | 1.74% |
| オプション・カバー率 | 100.00% |
| オプション平均行使期間 | 28日 |

予想配当利回り（年率換算）

5.39%

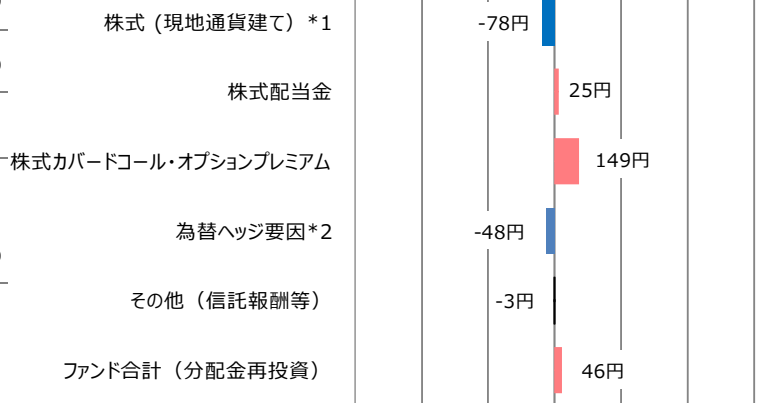
※上記予想配当利回りは、参照期末時点の構成銘柄を1年間保有した場合の値であり、将来の傾向、数値等を予測・保証するものではありません。

為替ヘッジ比率（日本円）

97.67%

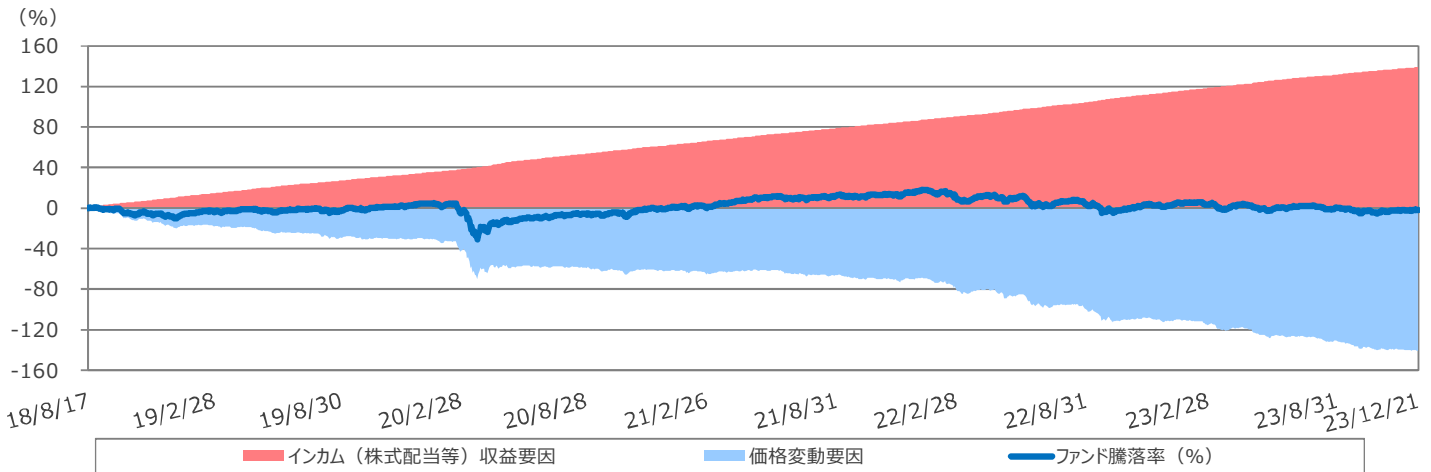
※比率は、ポートフォリオ（円建ての資産を除く）に対するものです。

パフォーマンス要因及び運用概況



*1 株式（現地通貨建て）は、株式の価格変動とオプションによる損益を含みます。
 *2 為替ヘッジ要因は、為替変動による効果（-303円）を含みます。
 ※上記の金額はあくまで概算値であり、実際の基準価額の変動を正確に表しているものではありません。
 ※金額は四捨五入して表示している場合がありますので、各項目の合算は必ずしも合計とは一致しません。

基準価額騰落率の変動要因の推移



※クレディ・スイス・グループのデータを基に、SBIアセットマネジメント作成。

■ ファンドの運用状況

当月の主要投資対象ファンドの運用成果は、+0.47%の上昇となりました。

内訳は、高配当株式は、価格変動による効果が▲0.80%、高配当株式の配当による効果が+0.26%と全体で▲0.54%の寄与となり、為替については、為替ヘッジ要因等による効果が▲0.49%の寄与となりました。

一方、株式カバードコール・オプションプレミアムによる効果が+1.53%となりました。また、外国投資信託の運用に関わる経費等による効果が▲0.03%となっております。

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

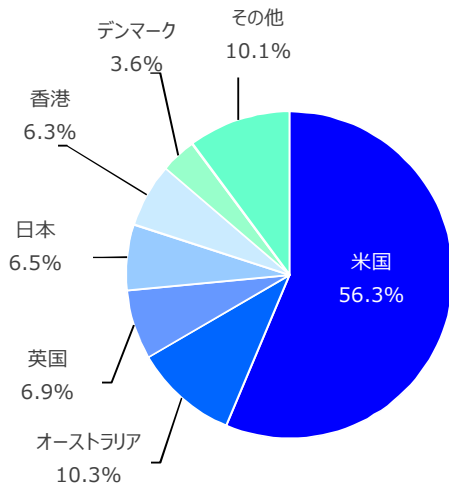
2023年12月29日基準

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

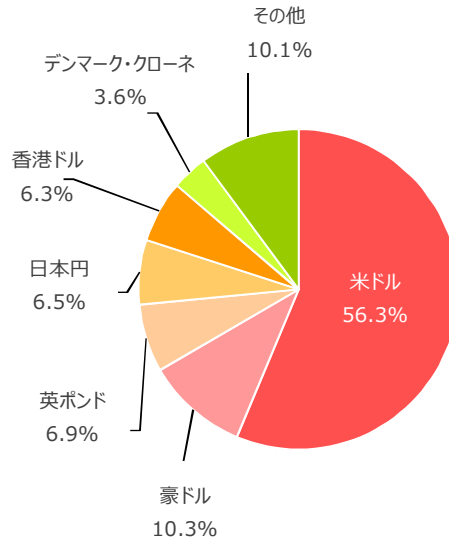
主要組入投資信託証券の資産構成

主要投資対象ファンド 評価基準日：2023年12月21日

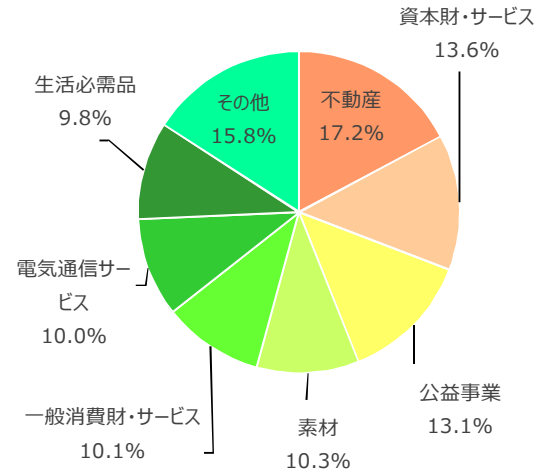
組入上位国・地域



通貨別構成



業種別構成



組入上位10銘柄

| 銘柄名 | 通貨 | 国・地域 | 業種 | 比率 |
|------------------------|------------|---------|------------|-------|
| 1 B & Mヨーロッパ・バリュー・リテール | 英ポンド | 英国 | 一般消費財・サービス | 3.59% |
| 2 A Pモラー・マースク | デンマーク・クローネ | デンマーク | 資本財・サービス | 3.58% |
| 3 DHLグループ | ユーロ | ドイツ | 資本財・サービス | 3.58% |
| 4 ヘルスピーク・プロパティーズ | 米ドル | 米国 | 不動産 | 3.51% |
| 5 ミネラル・リソースズ | 豪ドル | オーストラリア | 素材 | 3.50% |
| 6 ラマール・アドバタイジング | 米ドル | 米国 | 不動産 | 3.47% |
| 7 フォーテスキュー | 豪ドル | オーストラリア | 素材 | 3.47% |
| 8 デジタル・リアルティ・トラスト | 米ドル | 米国 | 不動産 | 3.45% |
| 9 アイアンマウンテン | 米ドル | 米国 | 不動産 | 3.42% |
| 10 インターパブリック・グループ | 米ドル | 米国 | 電気通信サービス | 3.40% |

組入銘柄数

30銘柄

※比率は主要組入投資信託証券のポートフォリオに対する割合です。

※業種は世界産業分類基準（GICS）による分類です。

※「主要組入投資信託証券の運用概況」及び「主要組入投資信託証券の資産構成」は、SBIアセットマネジメントがクレディ・スイス・グループからの情報を基に作成しています。

※データの分類方法や評価基準日の一部が異なる場合があるため、概算値となりますのでご注意ください。また、掲載データに関する情報の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。

投資環境及びコメント

主要投資対象ファンド 評価基準日：2023年12月21日

※クレディ・スイス・グループのコメントを基に、SBIアセットマネジメント作成。

■ 世界経済動向

足元の世界経済は地域ごとにばらつきが見られるものの緩やかな回復基調を維持しています。米国経済は、11月の非農業部門雇用者数が市場予想を上回り堅調な結果となりました。11月のCPI（消費者物価指数）の上昇率は10月と比べやや減速しました。累積的な利上げの効果により米労働市場の軟化やインフレ鈍化傾向が強まる見込みです。ユーロ圏では、10月の鉱工業生産が予想を上回る落ち込みとなったことや小売売上高が低調となるなど、景気後退への懸念が高まっています。消費者物価指数の伸び率鈍化やエネルギー価格の低下が見られるものの圧力への懸念が根強くECBの利下げに慎重な姿勢は今後も続きそうです。中国経済は低調ながらも底堅く推移しています。鉱工業生産や小売売上高はプラスに寄与しているものの、不動産市場の低迷や、輸出、投資などの需要の回復に遅れが見られます。

■ 主要市場別動向

2023年12月（11月29日から12月28日）のS&P500種株価指数は+5.1%上昇しました。月初は、12月のFOMC前のブラックアウト期間中で米FRB高官の発言が控えられたこともあり、様子見姿勢が強まりました。月中盤は、12月のFOMCにおいて政策金利の据え置きが決定されたことに加え2024年の政策金利見通しが下方修正されました。また、今後の利下げについて議論したことも明らかになりました。これを受けて早期利下げ観測が強まり米長期金利が低下したことから、株価は堅調に推移しました。月末にかけては、米FRBの2024年の利下げ観測が投資家心理の支えとなり、月初からの上昇基調が続きました。

2023年12月（11月29日から12月28日）のオーストラリア株式市場は上昇しました。12月前半はRBA（豪州準備銀行）が金融政策決定会合において政策金利の据え置きを決定したことや、米長期金利の低下に連れて豪3年国債利回りも低下したことなどから、オーストラリア株式市場は買いが優勢となりました。12月後半は、12月のFOMCにおいて政策金利の据え置きが決定されたことに加え2024年の政策金利見通しが下方修正されました。また、今後の利下げについて議論したことも明らかになりました。このような中、米長期金利が一段と低下したことに連れて豪3年国債利回りも低下したことから、オーストラリア株式市場は上昇基調が続きました。

2023年12月の欧州株式市場は上昇しました。12月前半は、ユーロ圏のインフレの鈍化傾向が意識されたことや欧州中央銀行（ECB）の早期利下げ観測などを受けて長期金利が低下したことから、株価は上昇基調で推移しました。12月後半は、ECBの早期利下げ観測の後退やユーロ圏の景況感悪化などを背景に株価上昇の勢いは弱まりましたが、12月の米FOMC後に早期利下げ観測が強まり米国株が堅調に推移したことが好感され、投資家のリスク選好姿勢が強まったことから欧州株は堅調さを維持しました。

2023年12月の英国株式市場は上昇しました。月初は、中国の景況感に改善が見られたことや欧米を中心に利上げ局面の終了、利下げ観測が広がったことなどが支えとなりました。原油相場の下落は重しとなりました。中旬は12月のFOMCにおいて3会合連続で政策金利の据え置きが決定されたことや2024年の政策金利見通しが下方修正されたことを受けて利上げ局面が終わったとの見方が広がり、買いが優勢となりました。月末にかけては、英消費者物価指数（CPI）が市場予想を下回ったことを受けて、イングランド銀行の利下げ観測が強まったことから幅広い銘柄で買いが優勢となりました。

投資環境及びコメント

※クレディ・スイス・グループのコメントを基に、SBIアセットマネジメント作成。

■ 高配当株式市場の動向

12月の世界株市場は米FRBによる早期利下げ観測や米国経済のソフトランディング期待などを背景に概ね堅調に推移しました。米国株式市場は、インフレ鈍化に伴いFRBによる早期利下げ観測が強まる中、長期金利の低下を受けて買いが優勢となりました。また、ユーロ圏の株式市場もECBの早期利下げ観測が意識され、長期金利が低下したことから、株価は堅調に推移しました。他方、日本株市場では、金融緩和政策の維持や円安の進行などが好感され買いが優勢となったものの、月末にかけて米長期金利の低下に伴う円高・ドル安の進行を受けて小幅安となりました。当期間中の世界高配当株は、株価上昇による配当利回りの低下もあり、世界株のパフォーマンスを下回りました。

■ 今後の運用方針

引き続き、主として円建の外国投資信託であるクレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）IIIーグローバル高配当株式プレミアム・ファンド（適格機関投資家限定）の受益証券への投資を通じ、実質的に、世界の高配当株式への投資に加え株式カバードコール戦略を組み合わせることで、相対的に高い配当収入の確保を中心に中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行います。

また、主要投資対象とする外国投資信託において、為替変動リスクの低減を目的に原則として為替ヘッジを行い、世界の高配当株式への投資に加え株式カバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行います。

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

ファンドの目的・特色

ファンドの目的

世界の高配当株式への投資に加えカバードコール戦略を組み合わせることで、配当収入の確保を中心に、中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。なお、定率払出しコースでは、毎月の分配実施により資産の定時取崩しニーズに応えるとともに、資産の運用により当該取崩しにかかる受取期間の延長を目指します。

ファンドの特色

1

世界の高配当株式への投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略を行います。

2

分配（払出し）方針の異なる3つのコースがあります。

*「分配」を、以下「払出し」と表示する場合があります。

資産成長コース

複利効果による資産の成長を重視し、分配を極力抑制します。

年7%定率払出しコース

年15%定率払出しコース

毎月の分配実施*により資産の定時取崩しニーズに応えるとともに、資産の運用により当該取崩しにかかる受取期間の延長を目指します。

*分配金額の一部または全部が、実質的に投資元本の払戻しに相当する場合があります。

3

為替変動リスクの低減を目的として、原則として為替ヘッジを行います。

4

基準価額が3,000円を下回った場合には、安定運用に移行し、繰上償還します。

*基準価額は1万口当たり。支払済分配金を加算しません。

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

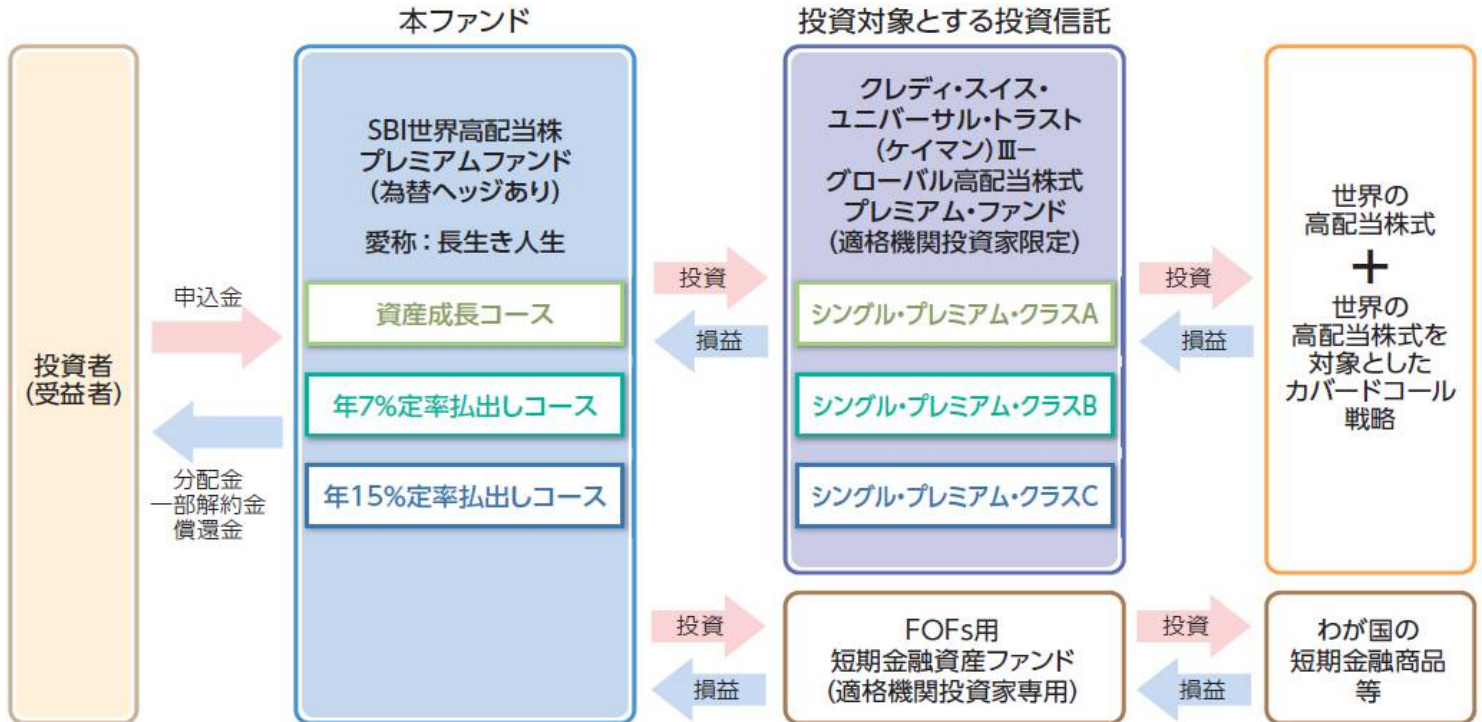
追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

ファンドの目的・特色

ファンドの仕組み

本ファンドはファンド・オブ・ファンズ方式で運用を行います。

ファンド・オブ・ファンズ方式とは、投資者の皆様からお預かりした資金を複数の投資信託に投資することにより運用を行う方式です。



* 本ファンドが投資対象とする外国投資信託では、直接株式への投資やオプション取引を行わず、実質的に世界の高配当株式への投資とオプション取引を組み合わせたカバードコール戦略の損益を享受します。

* 投資対象ファンドについて、詳細は投信信託説明書（交付目論見書）の「組入れ投資信託証券の概要」をご覧ください。

* 各コース間でスイッチングができる場合があります。スイッチングの取扱いは販売会社によって異なります。

詳しくは販売会社にご確認ください。

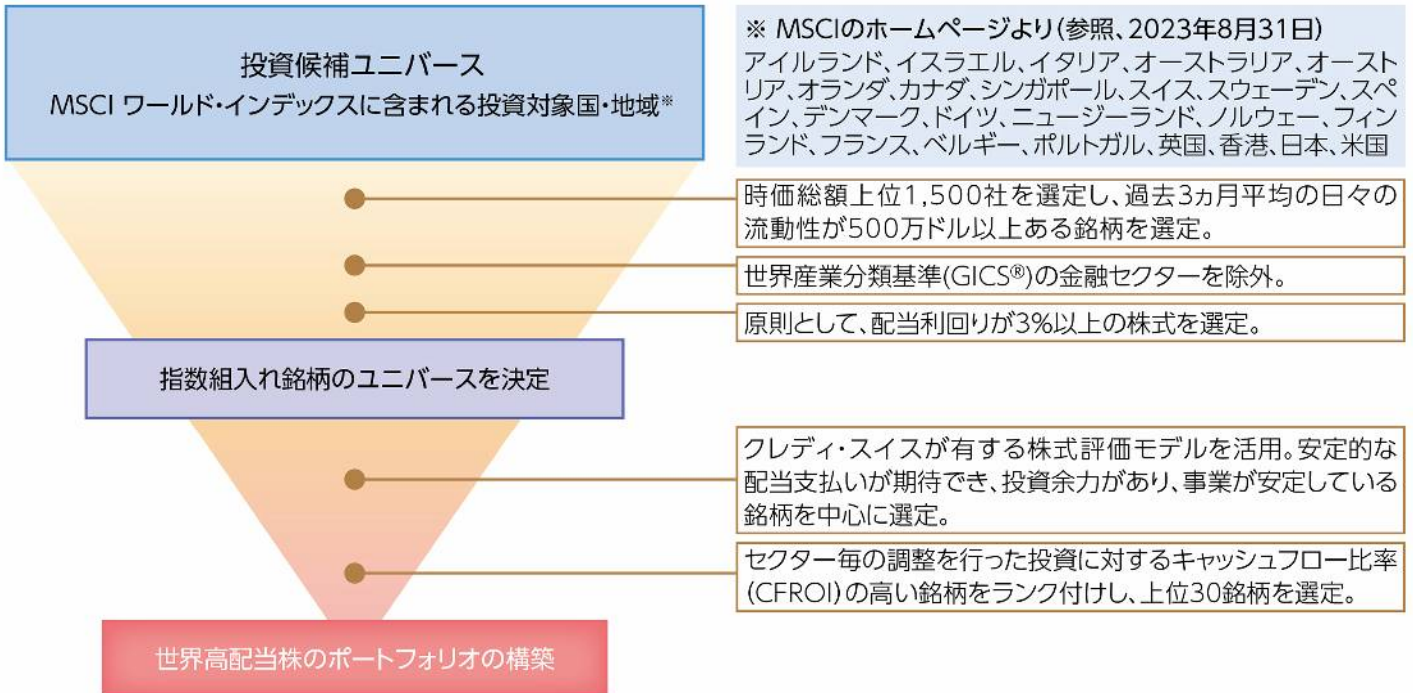
<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

ファンドの目的・特色

ファンドの特色

【世界高配当株の運用プロセス】



- MSCI ワールド・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。
- 世界産業分類基準(Global Industry Classification Standard (“GICS®”))は、MSCI Inc.とStandard and Poor’s Financial Service LLC (S&P)が開発した業種分類であり、MSCI Inc.とS&Pの独占的な財産です。

*上記プロセスは本書作成日現在のものです。今後変更になる可能性があります。

■世界高配当株式およびオプション取引の運用は、クレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッドが行います。

クレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッドについて

- クレディ・スイス・マネジメント(ケイマン)リミテッドは、スイスのチューリッヒに本拠を置く世界有数の金融グループ、クレディ・スイス・グループの一員で、ファンドの資産の運用管理、受益証券の発行等を行います。

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

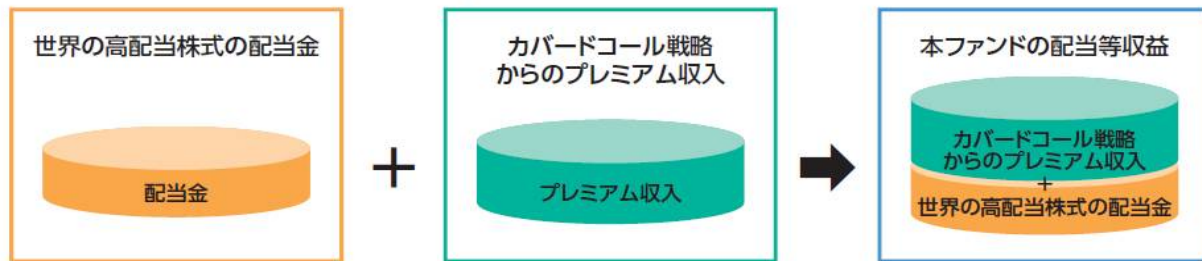
ファンドの目的・特色

ファンドの特色

本ファンドの投資戦略

■ 世界の高配当株式からの配当金に加え、その個別銘柄を対象としたカバードコール戦略から得られるプレミアム収入により、相対的に高い配当収入の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。

【本ファンドの配当等収益のイメージ図】



*上記は本ファンドの配当等収益を示したイメージであり、ファンドの将来の運用成果について示唆、保証するものではありません。

本ファンドにおけるカバードコール戦略とは

*「本ファンドにおけるカバードコール戦略」を、以下「当戦略」と表示する場合があります。

- 世界の高配当株式を保有しつつ、その個別銘柄のコールオプション（あらかじめ定めた価格で買う権利）を売却する戦略です。
- 保有株式の価格の上昇／下落にかかわらず、プレミアム収入^{*}を獲得することができます。
- 一方で、保有株式の価格の上昇による利益の獲得は限定的となります。
- 保有株式の価格が下落した場合には損失が発生しますが、プレミアム収入の獲得により、損失が相殺あるいは軽減されることで収益の改善が期待できます。

*「プレミアム収入」とは、オプションの売却時に受取る代金（権利料）のことをいいます。

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

各コースの分配（払出し）水準について

各コースの分配(払出し)水準について

| 資産成長コース | 年7%定率払出しコース | 年15%定率払出しコース |
|---------------------------------------|---|--|
| 年2回決算を行います。 | 毎月決算を行います。 | 毎月決算を行います。 |
| 複利効果による <u>資産の成長</u> を重視し、分配を極力抑制します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・決算日における決算前基準価額水準の<u>概ね年7%相当</u>の金額を払出すことを目標とします。 ・原則として、奇数月には偶数月の2倍前後の金額を払出します。 | <ul style="list-style-type: none"> ・決算日における決算前基準価額水準の<u>概ね年15%相当</u>の金額を払出すことを目標とします。 ・原則として、奇数月には偶数月の2倍前後の金額を払出します。 |

- ・上記の払出しは、有価証券届出書提出日現在の法令や諸規則、税制を前提としています。今後法令や諸規則等が変更された場合、上記のような払出しができなくなる可能性があります。
- ・払出し水準は、上記の料率のお支払いを保証するものではありません。また、本ファンドの収益率や利回りを示すものではありません。
- ・払出し金(分配金)は、計算期間中の基準価額の上昇分を上回ることがあり、その一部または全部が**実質的な投資元本の払戻しに相当**する場合があります。
- ・払出し金(分配金)は、投資信託の純資産から支払われるため、**払出し金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下落します。**

繰上償還について

- **基準価額が一度でも3,000円を下回った場合には、短期金融商品等による安定運用に移行し、原則として当該日の翌営業日から1ヵ月以内に繰上償還します。**

※基準価額は1万口当たり。支払済分配金を加算しません。

- **主要投資対象とする外国投資信託が信託を終了した場合、または外国投資信託の分配方針の変更により商品の同一性が失われる場合には、繰上償還します。**

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

収益分配金（払出し金）に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

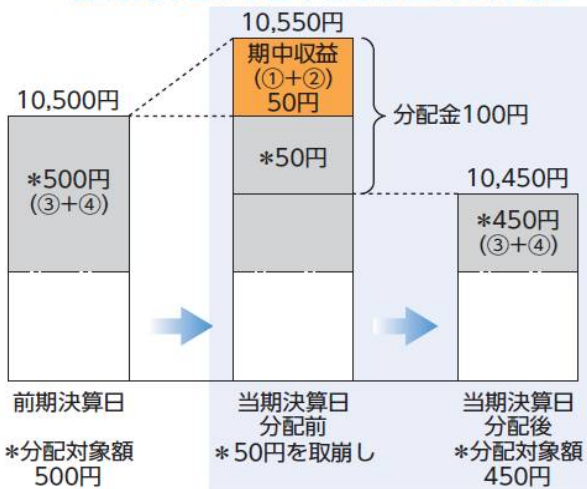
投資信託で分配金が支払われるイメージ



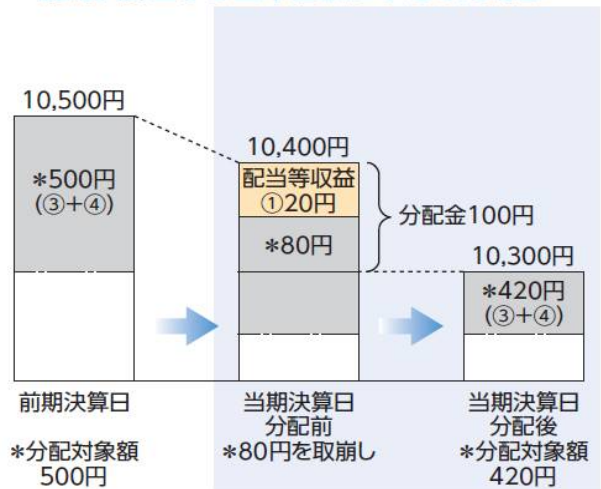
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益及び評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

（計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合）

■ 前期決算日から基準価額が上昇した場合



■ 前期決算日から基準価額が下落した場合



（注）分配対象額は、①経費控除後の配当等収益及び②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金及び④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部ないしすべてが、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上りが小さかった場合も同様です。

（分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合）



※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は**非課税扱い**となります。

（分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合）



普通分配金：個別元本（受益者のファンドの購入価額）を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金（特別分配金）：個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金（特別分配金）の額だけ減少します。

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

投資リスク

基準価額の変動要因

本ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割込むことがあります。信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆様へ帰属します。また、投資信託は預貯金と異なります。本ファンドの基準価額の主な変動要因としては以下のものがあります。なお、基準価額の変動要因は以下に限定されるものではありません。

主な変動要因

| | |
|--------------------|--|
| 価格変動リスク | 株式の価格は、個々の企業の活動や業績、国内外の経済・政治情勢、市場環境・需給等を反映して変動します。組入れた株式の価格が下落した場合、本ファンドの基準価額が下落する要因となり、損失を被ることがあります。 |
| カバードコール戦略の利用に伴うリスク | <ul style="list-style-type: none"> カバードコール戦略では、原資産である株式価格が上昇した場合の値上り益が限定されるため、株式のみに投資した場合に比べ投資成果が劣る可能性があります。本ファンドのカバードコール戦略では、株式への投資とそれぞれの個別銘柄ごとのコールオプションの売りを組み合わせるため、株式価格上昇時の値上り益が個別銘柄ごとに限定される結果、投資成果が株式市場全体の動きに対して劣化する可能性があります。 コールオプションの売りを行うことにより得られるプレミアム収入の水準は、オプション売却時点の価格水準や権利行使水準、価格変動率（ボラティリティ）、満期日までの期間、需給等複数の要因により決まりますので、当初想定したようなプレミアム収入の水準が確保できない可能性があります。 株式の価格水準や価格変動率の変動等によりコールオプションの評価値が変動し、損失を被ることがあります。 カバードコール戦略において、特定の期間で価格が下落した場合、再度カバードコール戦略を構築した場合の値上り益は、戦略再構築日に設定される権利行使価格までの値上り益に限定されますので、その後当初の水準まで価格が回復しても、本ファンドの基準価額の回復は緩慢になる可能性があります。 |
| 為替変動リスク | 本ファンドは主要投資対象とする外国投資信託において、原則として為替ヘッジを行いますが、為替変動リスクを完全に排除できるわけではありません。また、為替ヘッジを行う際、円金利が組入資産の通貨の金利より低い場合には、金利差相当分の費用（為替ヘッジコスト）がかかります。 |
| カントリーリスク | 実質的な投資対象となる国・地域において、政治・経済情勢の変化、外国為替規制、資本規制、税制の変更等の事態が生じた場合、又はそれが予想される場合には、方針に沿った運用が困難になり、基準価額の下落要因となる可能性があります。 |
| スワップ取引に関するリスク | <ul style="list-style-type: none"> 本ファンドが投資対象とする外国投資信託におけるスワップ取引では、取引の相手方から担保を受取ることで信用リスクの低減を図りますが、相手方に債務不履行や倒産その他の事態が生じた場合、カバードコール戦略の投資成果を享受することができず、予想外の損失を被る可能性があります。また、スワップ取引の相手方から受け入れた担保を想定した価格で処分できない場合があることから損失を被る可能性があります。 本ファンドが投資対象とする外国投資信託は、スワップ取引の相手方が現実に取引する株式やオプション取引について何ら権利を有しません。 |
| その他 | 解約資金を手当てするためにカバードコール戦略を解消（株式の売却およびオプションの買戻し）する際、市場規模や市場動向によっては当初期待される価格で解消できない場合があります。この場合、ファンドの基準価額が下落する要因となり、損失を被ることがあります。 |

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

その他の留意点

- 本ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 本ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待される価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- 投資信託は預金や保険契約と異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 銀行など登録金融機関でご購入いただく投資信託は投資者保護基金の支払対象ではありません。
- 収益分配金の水準は、必ずしも計算期間における本ファンドの収益の水準を示すものではありません。収益分配は、計算期間に生じた収益を超えて行われる場合があります。
- 投資者の購入価額によっては、収益分配金の一部または全部が、実質的な元本の一部払戻しに相当する場合があります。

リスクの管理体制

委託会社では、ファンドのパフォーマンスの分析及び運用リスクの管理をリスク管理関連の各種委員会を設けて行っています。

流動性リスクの管理においては、委託会社が規程を定め、ファンドの組入資産の流動性リスクのモニタリングなどを実施するとともに、緊急時対応策の策定・検証などを行います。取締役会等は、流動性リスク管理の適切な実施の確保や流動性リスク管理態勢について、監督します。

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

お申込みメモ

| | |
|---------------------------|---|
| 購入単位 | 販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 |
| 購入価額 | 購入申込受付日の翌営業日の基準価額 |
| 購入代金 | 販売会社が定める期日までにお支払いください。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 |
| 換金単位 | 販売会社がそれぞれ定める単位とします。詳しくは販売会社にお問い合わせください。 |
| 換金価額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を差引いた価額となります。 |
| 換金代金 | 原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からのお支払いとなります。 |
| 購入・換金申込 受付不可日 | 次のいずれかの休業日に該当する場合は、原則として購入・換金の受付を行いません。 ・ニューヨークの銀行 ・ニューヨークの証券取引所 ・ロンドンの証券取引所 ・香港の証券取引所 |
| 申込締切時間 | 原則として午後3時までに販売会社が受付けた分を当日のお申込みとします。なお、受付時間を過ぎてからのお申込みは翌営業日の受付分として取扱います。 ※受付時間は販売会社によって異なることありますのでご注意ください。 |
| 換金制限 | ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口解約または換金の請求額が多額となる場合には制限を設ける場合があります。 |
| 購入・換金 申込受付の中止 及び取消し | 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金の申込の受付を中止すること及びすでに受付けた購入・換金の申込の受付を取消す場合があります。 |
| 信託期間 | 2028年8月16日まで（設定日：2018年8月17日） ※信託期間の延長が有利であると認めるときは、信託期間を延長する場合があります。 |
| 繰上償還 | <ul style="list-style-type: none"> ● 委託会社は、各ファンドの基準価額（1万口当たり。支払済分配金を加算しません。）が3,000円を下回った場合には、短期金融商品等による安定運用に移行し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し信託を終了（繰上償還）させます。 ● 委託会社は、各ファンドが主要投資対象とする外国投資信託が存続しないこととなる場合、もしくは当該外国投資信託の分配方針変更により商品の同一性が失われることとなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し信託を終了（繰上償還）させます。 ● 次の場合には委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託期間を繰り上げて償還させる場合があります。 <ul style="list-style-type: none"> ・各ファンドの受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合 ・ファンドを償還させることが受益者のために有利であると認めるとき ・やむを得ない事情が発生したとき |
| 決算日 | <資産成長コース>：毎年2月16日および8月16日（休業日の場合は翌営業日） <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>：毎月16日（休業日の場合は翌営業日） |
| 収益分配 | <資産成長コース> 年2回決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います。 <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース> 年12回決算を行い、収益分配方針に基づき分配を行います。 |
| 課税関係 | 課税上は株式投資信託として取り扱われます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合にNISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの対象ではありません。 益金不算入制度、配当控除の適用はありません。 ※税制が改正された場合には、変更となる場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家にご確認されることをお勧めします。 |

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

| | |
|---------|---|
| 購入時手数料 | 購入価額に3.3%（税抜：3.0%）を上限として販売会社が定める手数料率を乗じて得た額とします。詳細は販売会社にお問い合わせください。 |
| 信託財産留保額 | 換金申込受付日の翌営業日の基準価額に0.5%を乗じた額をご換金時にご負担いただきます。 |

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

| | | |
|---|---|---------------|
| 運用管理費用 （信託報酬） | ファンドの日々の純資産総額に年1.089%（税抜：年0.99%）を乗じて得た額とします。 信託報酬は毎日計上され、毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。 信託報酬 = 運用期間中の基準価額 × 信託報酬率 | |
| | 投資対象とする投資信託証券の信託報酬 | 年0.40%程度 |
| | 実質的な負担* | 年1.489%（税込）程度 |
| * ファンドが投資対象とする投資信託の信託報酬を加味した、投資者の皆様が実質的に負担する信託報酬率になります。なお、投資対象ファンドの変更等により、数値は変動する場合があります。 | | |
| その他の費用 及び手数料 | ファンドの監査費用、有価証券売買時にかかる売買委託手数料、信託事務の処理等に要する諸費用、開示書類等の作成費用等（有価証券届出書、目論見書、有価証券報告書、運用報告書等の作成・印刷費用等）が信託財産から差引かれます。なお、これらの費用は、監査費用を除き、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことができません。 | |

※投資者の皆様にご負担いただく手数料等の合計額については、ファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

委託会社、その他関係法人

| | |
|------|--|
| 委託会社 | SBI アセットマネジメント株式会社（信託財産の運用指図、投資信託説明書（目論見書）及び運用報告書の作成等を行います。） 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第311号 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 |
| 受託会社 | 三井住友信託銀行株式会社（ファンド財産の保管・管理等を行います。） |
| 販売会社 | ※最終頁をご参照ください。（受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。） |

<資産成長コース> <年7%定率払出しコース> <年15%定率払出しコース>（愛称：長生き人生）

追加型投信／内外／その他資産（株式・オプション）

販売会社一覧

| 金融商品取引業者名 | 登録番号 | 加入協会 | | | | |
|-----------------------------------|----------|----------------------|---------------------|---------------------|----------------------------|-------------------|
| | | 日本証券業協会 | 一般社団法人 金融先物取引業協会 | 一般社団法人 日本投資顧問業協会 | 一般社団法人 第二種金融商品 取引業協会 | 一般社団法人 日本STO協会 |
| 株式会社SBI証券 ^{※2} | 金融商品取引業者 | 関東財務局長 (金商) 第44号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 楽天証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長 (金商) 第195号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| クレディ・スイス証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長 (金商) 第66号 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 株式会社静岡銀行 ^{※1} | 登録金融機関 | 東海財務局長 (登金) 第5号 | ○ | ○ | | |
| 株式会社中国銀行 | 登録金融機関 | 中国財務局長 (登金) 第2号 | ○ | ○ | | |
| 日産証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 関東財務局長 (金商) 第131号 | ○ | ○ | ○ | |
| 株式会社百十四銀行 | 登録金融機関 | 四国財務局長 (登金) 第5号 | ○ | ○ | | |
| 四国アライアンス証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 四国財務局長 (金商) 第21号 | ○ | | | |
| 百五証券株式会社 | 金融商品取引業者 | 東海財務局長 (金商) 第134号 | ○ | | | |
| 株式会社SBI新生銀行(委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) | 登録金融機関 | 関東財務局長 (登金) 第10号 | ○ | ○ | | |

■ 販売会社では、受益権の募集・販売の取扱い、及びこれらに付随する業務を行います。

※1 株式会社静岡銀行では、インターネットのみの取扱いです。

※2 2023年3月17日、株式会社SBI証券は日本商品先物取引協会に加入致しました。

本資料のご留意点

○本資料は、SBIアセットマネジメントが作成した販売用資料で、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。○本資料は、SBIアセットマネジメント株式会社が信頼できると判断したデータに基づき作成されておりますが、その正確性、完全性について保証するものではありません。また、将来予告なく変更されることがあります。○本資料中のグラフ、数値等は過去のものであり、将来の傾向、数値等を予測するものではありません。○投資信託は値動きのある証券に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、元本保証はありません。○投資信託の運用による損益はすべて受益者の皆様に帰属します。○当ファンドをお申込みの際には、必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。